

「解答・解答例等」「出題の意図」

選抜区分	2026年度（選抜区分：学校推薦型選抜） 法学部 法律学科・政策科学科（科目名：小論文）
<p>（1）課題文選択の背景</p> <p>出典は、田中将人『平等とは何か ―― 運、格差、能力主義を問いなおす（中公新書 2846）』（中央公論新社、2025年3月）である。本書は、人生が親ガチャ・運しだいでのいのか、能力主義は正しいか、不平等の何がわるいのかといった論点を中心に、平等とは何かについて考察したものである。本問では、平等と能力主義について論じた第3章及び政治上の平等について論じた第5章から、くじ引き入試制とロトクラシー（くじ引き民主制）の2点にトピックをしばって出題した。</p> <p>課題文で筆者は、アファーマティブ・アクション（AA）と能力主義の緊張関係から議論を始める。そして、マイケル・サンデルの書を手がかりに議論を展開し、能力主義のいう公正な社会が「平等な社会」とイコールではないこと、能力主義は社会を分断化しかねないことを指摘して、その改善策の一つとして「くじ引き入試制」を検討している。次に、その選挙バージョンである「ロトクラシー」に論を進める。そして、入試と同じく一定の足切りをしたうえでくじ引きをすることで、明らかに不適格な候補者を除外することができるとして、政治上の平等を推進する上ですぐれた面があることを指摘している。</p> <p>受験生はこれまで、AAやクオータ制については高校等での学習の場で考えたことがあったであろう。しかし、入試や選挙について「くじ引き」で決めるという視点は、あまり考えてこなかったのではないかと。ここでは、課題文の内容を正確に読み取って、なぜこのような発想が登場するのかを理解した上で、くじ引き入試制とロトクラシーの両者につき、自分の見解を分かりやすく表現してもらうことが、出題の狙いである。</p> <p>（2）受験生に何を望むか</p> <p>【問題1】は、340字以内で、「課題文の論旨を適切にまとめる」ことができるかどうかを問う。受験生の「読解力」と「要約力」が試される。</p> <p>別途、解答例を示しているが、AAと能力主義が緊張関係に立つこと、能力主義の理想は不平等の解決ではなく不平等の正当化であり社会を分断化する恐れがあること、その改善策として「くじ引き入試制」が考えられること、そして投票による代表を通じて不平等を是正するには限界がありロトクラシーによって政治上の平等を推進できること、これらの諸点を正確に読み取って、適切にまとめる力が求められる。</p> <p>【問題2】は、480字以内で、「私見を論理的・説得的に展開する」ことができるかどうかを問う。受験生の「自説展開力」が試される。</p> <p>「くじ引き入試制」と「ロトクラシー」のそれぞれについて、導入することの賛否が明確にされているかどうか、それぞれの私見が、理由とともに、論理的・説得的に述べられているか、が確認される。これまで学んできた知識を総動員して、くじ引き入試制とロトクラシーを導入することに対する私見を論理的・説得的に自分の言葉で表現することが求められる。なお、賛成であるか、反対であるかなど、解答者の結論自体は、評価を左右しない。</p>	

(3) 採点の講評等

【問題1】については、全体の2割程度の受験生（合格者の半数以上）が、論旨を正確に読み取って、適切にまとめることができていた。

一方、押さえるべき諸点を押さえきれていない答案も少なくなかった。全体要約であるにもかかわらず、全体を通して読むことをせず、いきなり書き始めている受験生もいたようである。また指定された制限字数を意識して書き始めているのか、課題文の前半部分の要約で字数を使い過ぎてしまい、後半部分の要約がほとんど書けていない答案も散見された。

パラグラフ・リーディングを心がける（段落ごとのキーワードや小見出しを意識して読み進める）ことや、答案構成を考えてから、解答を始めること（解答例では、8つの文で構成。1文あたり約40-60字。）などに気をつけてほしい。

【問題2】については、全体の1/4以上の受験生（合格者の70%近く）が、問題文の指示に従い、私見を、ある程度、論理的・説得的に、展開することができていた。しかし、「くじ引き入試制」と「ロトクラシー」の問題を「一括して」論じる答案が多く、両者の問題の所在の違いに留意しつつ、それぞれの賛否に関し、私見を展開することのできた「きわめて良い」答案は少なかった（全体の約7%、ただし全員が合格）。

また課題文の内容を繰り返すだけで、私見がほとんど書かれていない答案や、課題文の設定を離れた見当違い（AAなどのキーワードに飛びついてそのことに終始した内容）の答案は、低く評価された。実際、試験会場においては、問題2から解答を始めた受験生もいたようである。さらに「くじ引き入試制」と「ロトクラシー」を混同して、理由を述べる答案も見られた。

指示を踏まえ、課題文の論旨（課題文が問題としている枠組）を前提としつつ、自説を展開する「姿勢」が問われている。

最後に、【全体的な注意事項】として、いくつか挙げておく。

漢字の誤字や脱字などにも気をつけてほしい。また問題冊子や解答用紙の注意書きにも十分に目を通して、対応してほしい（横書きの指示があるにも関わらず、縦書きの答案用紙があった）。そして、問題文の指示をよく読んでほしい。例えば、問題1は、要約であり、私見は必要とされない。逆に、問題2では、要約そのものは必要ない。

「読解力」「要約力」や「自説展開力」を身につけることは、法学部を始め、大学での学習に大いに役立ちます。受験にあたっては、「過去問」を積極的に解き、小論文に慣れるよう、心がけましょう。

問題1「解答例」

昔は生まれで身分や職業が決まっていたが、能力主義の社会ではそれは認められない。その意味で能力主義は正義にかなう。しかしAAが実施されれば、高得点でも不合格となる者が現れ、その不公平さ故、AAと能力主義は緊張関係に立つこととなる。また、能力主義の理想は不平等の解決ではなく、不平等の正当化であり、社会を分断化する恐れがある。その改善策のひとつとして、くじで合格者を定めるくじ引き入試制が提案されている。その選挙バージョンがロトクラシーであり、代表者をくじで選ぶという提案である。普通選挙が行われても秘密投票が充分機能しないために、投票による代表には限界がある。くじで代表者を定めることで、特定の層だけが政治家になりやすい現状が改善される可能性があり、政治上の平等を推進できる。